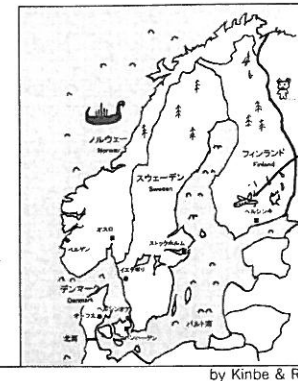


北欧 福祉と教育 街歩き ②支える

蘭部英夫=文・写真



by Kinbe & Ryo

メモ(2)

スウェーデン

人口918万人

首都=ストックホルム(人口80万人)
労働人口は約410万人。そのうち公的部門(福祉、医療、教育)には約210万人が働いている。公的部門を支えるのは女性で、6歳未満の子どもをもつ母親の78%が働いている。社会保障がそれを支える。



写真上・「バルデル」のある建物は150年前、孤児院としてつくられ、子ども病院、精神病院となり、1970年代からの精神病院解体の中で「バルデル」が発足した

写真下・「バルデル」のある街角



ストックホルム市のクングスホルメン地区は、ミステリー小説でおなじみといわれる裁判所があり、緑の多い閑静な住宅街だ。「あーえ? なに? うさぎ!? ええー!!」

路を挟んだ向かいに市営アパートがある。その中の精神障害者のグループホームが訪問先だ。市のスタッフのシニータとシルビアが待っていてくれた。10年目というこのグループホームは市が部屋を確保し、3人のスタッフが6つの部屋の住人を支援している

る。1つはカップルだそう。朝8時〜10時に、スタッフは起床や朝食、おしゃべりなど自立した生活のサポートをする。特別な日にはみんなで集まったり、計画してランチを食べたりするが、普段はそれぞれの部屋でそれぞれが暮らしている。いつもオープンなので、アパートの住人とのトラブルもないそうだ。

スタッフはこの専任ではない。他のグループホームとあわせ朝・昼・夜と1日に一人あたり23人をサポートしている。病院から退院した人など慣れない人の難しいケースのときは土日勤務するそうだ。そういう場合は、「プラスα」の賃金増ではなく、現場でやりくりして、必ず「休暇」をとるのだと言っていた。かつて精神病院で働いていた人や高校のケアコースを卒業した人たちがスタッフとして現場で働きながら研修を受けている。「もともと難しいことはなんですか?」の質問に、「どう信頼してもらえるか。近づきすぎでもなく、離れすぎでも

ない信頼関係かな」

「精神安定の薬の服用についても、自分の責任で自分の人生をマネジメントしてね、と対応しているけど、飲まない症状が厳しくなってくるし。どの時点でドクターと連絡をとるのか。早すぎず、遅すぎず」

部屋を見せてくれた男性は5年前に越してきたという。昼間はコピーで働いている。アパートでは、本を読んだり、テレビを見たり、音楽を聞いたり、バスタも得意だそう。『快適です』と言って、ほほえんでくれた。

*

市立図書館のある地下鉄駅を降りると、金曜の午後の街は大賑わいだ。

つぎの訪問先は、24年前にスタートした精神障害者センター「バルデル」。だれでも来られる場、居場所だという。チェスやカード遊び、テレビやビデオを見る部屋、パソコン利用も自由だ。洗濯もできる。シャワーもある。みんなで食事することもあれば、郊外にピクニックに行くこともある。



「バルデル」には、3年前から音楽学校が同居している



写真上・青年は、訪問した品川文雄発達障害研究センター長といっしょににっこり笑った
写真下・市のスタッフ、シニータとシルビア



偲ぶ会にも使っているという。

月曜日は13〜20時で、夜遅くまで開けている。火曜日から金曜日は8時〜16時。200人くらいが利用しているとのことだ。矢継ぎ早の質問に、スタッフははいねいに答えてくれた。

「支援の対象は、精神の問題やアルコールや麻薬依存などもある。ホームレスの人、だれでも匿名で来られる。ゆっくり休息したい」「シャワーしたい」「洗濯したい」「人だ。そして、自然に自立していく。自分から動き出すこ

北欧度クイズ②

世界遺産でないのは何番?

- ①スウェーデン・森の墓地
- ②デンマーク・クロンボー城(写真)
- ③デンマーク・チボリ公園

正解の方から抽選で3名に、拙著『北欧 考える旅』(全障研出版部)をプレゼント。編集部宛に応募してください。

〈応募方法は49ページ〉



とを待っている」「要請があればドクターやナースと連絡をとるが、本人の意志が基本です」
ゆったりとした時間が流れる。ここは何もないようにいて、深いくみがある。
*
階段を素敵な女性たちが2階に駆け上がった。
階段を登ると広い中庭があり、子どもたちの歓声も聞こえてきた。3年前、音楽学校が越してきたという。インクルージョン(排除しない)の街なんだ。